

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

世界的な景気減速から輸出環境は悪化基調 (Asia Weekly (9/15~9/19))

～内需・外需双方の弱含みでアジア経済も減速基調が鮮明に～

発表日：2008年9月22日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
9/15 (月)	(ニュージーランド) 4-6 月製造業売上高 (前年比)	▲0.6%		+3.0%
	(スリランカ) 金融政策委員会 (政策金利)	10.50%	10.50%	10.50%
	(フィリピン) 7 月海外労働者送金 (前年比)	+24.6%		+30.0%
	(シンガポール) 7 月小売売上高 (前年比)	+10.0%	+11.8%	▲3.4%
	(前月比、季調済)	▲0.2%	▲1.9%	▲0.1%
9/17 (水)	(スリランカ) 7 月輸出 (前年比)	+24.1%		▲1.9%
	7 月輸入 (前年比)	+52.0%		+39.4%
	4-6 月実質 GDP (前年比)	+7.0%	+5.9%	+6.2%
	(シンガポール) 8 月輸出 (除石油、前年比)	▲13.8%	▲7.9%	▲5.8%
	(除石油、前月比、季調済)	+2.0%	+1.8%	▲2.3%
9/18 (木)	(マレーシア) 7 月製造業売上高 (前年比)	+15.0%		+18.1%
	(香港) 8 月失業率 (季調済)	3.2%	3.3%	3.2%
	(インド) 卸売物価 (9/6 時点、前年比)	+12.14%	+12.07%	+12.10%
9/19 (金)	(タイ) 8 月輸出 (前年比)	+14.9%		+43.9%
	8 月輸入 (前年比)	+26.9%		+55.1%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[スリランカ] ～4-6 月期 GDP は加速も、先行きはインフレと金利高の共存による内需鈍化の影響は不可避～

17 日に公表された 4-6 月期の実質 GDP は、対前年同期比+7.0%と前期(同+6.2%)から加速した。同国ではインフレが高進しており、直近の 8 月の消費者物価は対前年同月比+24.9%と高水準で推移している。金融当局はインフレ抑制の観点から政策金利を高水準で維持し続けており、内需は大きく鈍化しているとみられる。その一方、同国は世界 4 番目の紅茶の産地として新興国向けの輸出が堅調に伸びており、農林漁業での伸びが加速したことで全体が押し上げられたと考えられる。

15 日に実施された金融政策委員会では、19 回連続で政策金利を 10.5%で据え置く決定がされている。この水準は 2002 年以来の高い水準であるものの、伸びは鈍化基調を示しているが、マネーの伸びが依然として高止まりしていることで足元のインフレはコストプッシュ型インフレ圧力と需要インフレとの複合インフレに陥っていると考えられることから、当面は金融緩和が行われる見通しは低いと考えられ、結果として先行きの景気は減速基調が強まっていくものと見込まれる。

なお、17 日に公表された 7 月の輸出は、対前年同月比+24.1%と前月(同▲1.9%)から大幅に加速、全般的に伸びが加速しているが、とりわけ農産品での伸びは同+54.7%と大きく、輸出全体を押し上げた格好となっている。なお、7 月の輸入は同+52.0%と前月(同+39.4%)から加速しており、世界的な原油及び穀物価格の高止まりによって、輸入額そのものが押し上げられたことが影響している。その結果、7 月の貿易収支は

▲413.7 百万ドルと前月（▲504.5 百万ドル）から赤字幅は縮小したものの、依然として貿易赤字は高水準で推移しており、同国は海外労働者からの送金額が GDP の約 9%程度と高水準で流入しているものの、経常収支への悪影響が懸念される。

図 1 実質 GDP 成長率の推移(前年比)

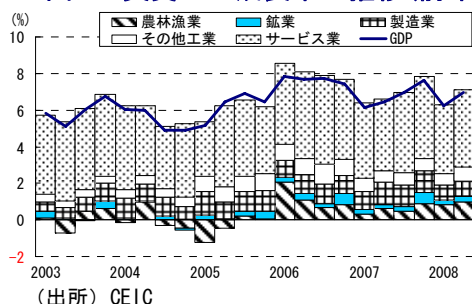


図 2 消費者物価の推移(前年比)

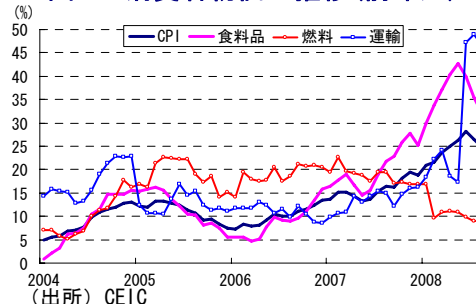


図 3 政策金利の推移

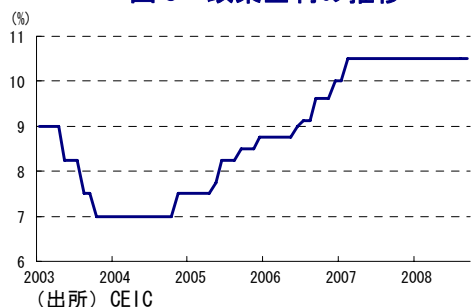


図 4 M2 と国内信用の推移(前年比)

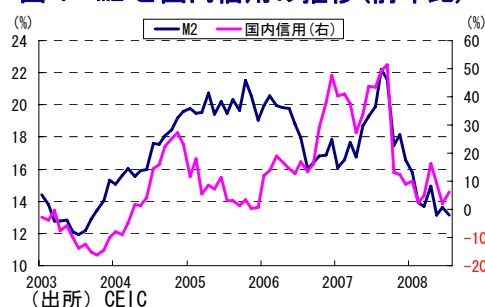
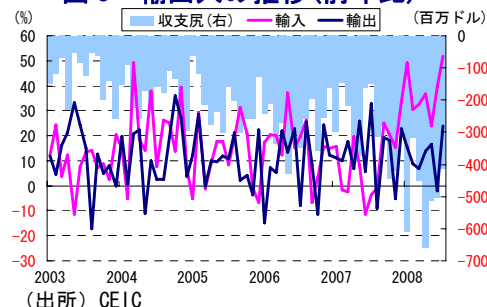


図 5 輸出入の推移(前年比)



[シンガポール] ～7 月は内需に勢い戻るも外需は弱含みが続き、景気全体は下押し圧力を強める～

15 日に公表された 7 月の小売売上高は、対前年同月比+10.0%と前月（同▲3.4%）から加速した。国内の建設需要が増加したことで家財など幅広い分野で売上が伸び、さらに、自動車の売上也増大したことでガソリン需要が伸びたことも影響したとみられる。なお、同国のインフレは鈍化基調にあるものの、依然として高水準の伸びが続いていることもあり、当面のところ、小売売上には下押し圧力が続くものと考えられる。

17 日に公表された 8 月の輸出（非石油）は、対前年同月比▲13.8%と前月（同▲5.8%）から鈍化、約 2 年ぶりに低い伸びを記録した。米国経済の減速に伴って米国向けが大きく減速していることに加え（同▲30.2%）、EU 経済も減速基調が強まる中で鈍化するなど（同▲26.9%）、先進国向けが軒並み減速している。さらに、8 月はこれまで堅調さを維持してきたアジア域内向けについても、アジア経由で最終消費地が米国となる財に対する需要が減速する中で鈍化基調が強まった。なお、8 月の輸入は、対前年同月比+13.7%と前月（同+26.8%）から大きく減速、原油の輸入が大きく鈍化したことが影響した。なお、米ドル試算値ベースでは、足元では減価基調を強めているものの、通貨 SG ドルは昨年水準からは大きく増価しており、輸出は対前年同月比+16.9%と前月（同+28.5%）から減速、輸入は同+23.5%と前月（同+41.5%）から減速している。

図6 小売売上高の推移(前年比)

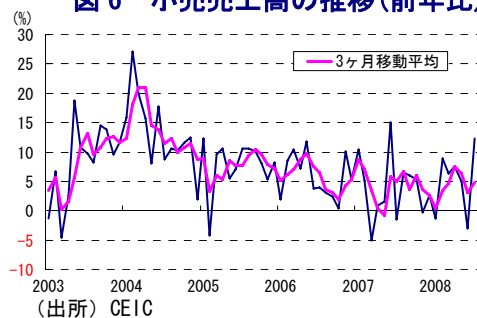


図7 輸出入の推移(前年比)

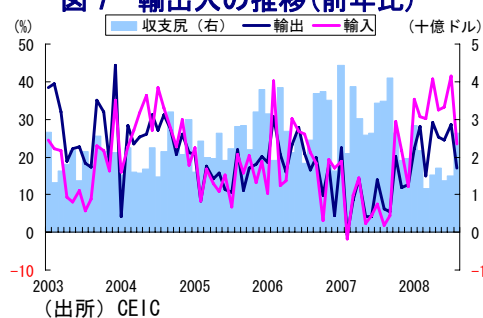
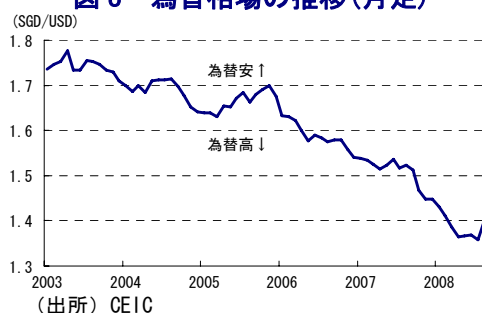


図8 為替相場の推移(月足)



【インド】 ～北部の洪水、為替減価の影響からインフレは依然として高止まりが続く～

18日に公表された9月6日時点の卸売物価は、対前年同期比+12.14%と前週（同+12.10%）から若干加速した。8月中旬から続くモンスーン期の大雨の影響により北部のビハール州や東部のオリッサ州で大洪水が発生している影響から、食料供給が一時ストップするなど、食料品価格が高止まりしていることで全体が押し上げられたものとみられる。なお、インフレ率が高止まりしている影響で通貨ルピーに売り圧力が掛かっており、輸入物価が押し上げられることでインフレ圧力が上振れしていることも影響している。インフレ率については、伸びそのものは鈍化基調を強めているものの、依然として高止まりが続いており、先行きの同国経済は減速基調が強まると考えられる。なお、10月末に予定されている次回の金融政策委員会では、スバラオ新総裁の就任後初めての委員会であるが、レディ前総裁同様にインフレタカ派姿勢を強めるとみられ、金融引き締め姿勢を堅持するものと予想される。

図9 卸売物価の推移(前年比)

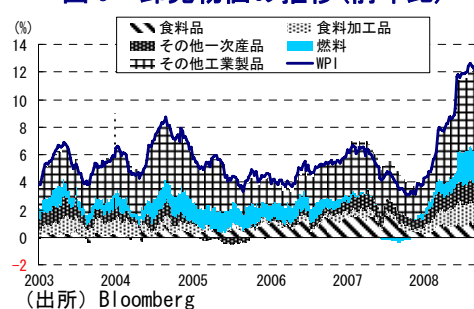
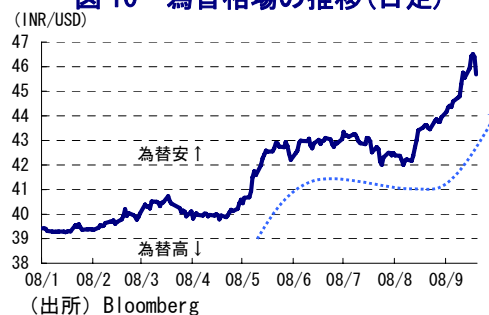


図10 為替相場の推移(日足)



【タイ】 ～世界経済の減速基調から輸出鈍化、貿易収支は依然赤字状態を脱せず、為替にも下押し圧力～

19日に公表された8月の輸出は、対前年同月比+14.9%と前月（同+43.9%）から大きく減速した。世界的な景気減速懸念が強まる中、同国の主要輸出財であるコメ、ゴムなどの農産品のみならず、電子部品や自動車に対する需要も鈍化したことが影響したとみられる。先行きを考えると、米国発の世界的な金融不安から世界経済のさらなる減速が懸念されており、こうした財に対する世界的な需要も細っていく可能性が高まってい

る。一方、8月の輸入は同+26.9%と前月（同+55.1%）から大きく減速、インフレと金利高の共存による内需への下押し圧力に加えて、7月半ばをピークに世界的な原油価格の騰勢に調整が訪れていることも影響したと考えられる。

この結果、8月の貿易収支は▲782 百万ドルと前月（▲1,027 百万ドル）から赤字幅は縮小したものの、単月ベースでの赤字基調から脱しておらず、国際収支への影響が懸念される。足元では、通貨バースへの減価圧力が強まっているものの、政治的な不安定さも相俟って、先行きも減価圧力が強まっていくものと見込まれる。

図 11 輸出入の推移(前年比)

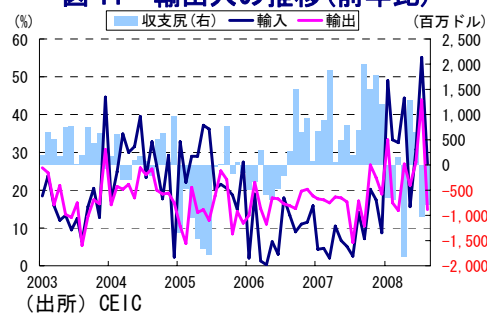


図 12 為替相場の推移



【フィリピン】 ～海外労働送金額は過去最高レベルを維持、景気の下支えに効果が期待される～

15日に公表された7月の海外労働者送金額は、対前年同月比+24.6%と前月（同+30.0%）からは伸びは鈍化したものの、13.7 億ドルと依然として多額の流入が続いている。同国からの移民の多くは米国におり、米国経済が減速している影響を受けやすいと考えられる一方、その多くは医師や看護師といった専門職とされることから、他国の移民（例えば、建設従事者が多いとされるメキシコなど）と比べると景気減速の影響を直接は受けにくいと考えられる。なお、同国にとって海外労働者送金はGDPの1割を占める重要な外貨獲得手段であり、流入が増大すれば、足元で減価基調が続く通貨ペソを下支えが期待される。なお、同国では、世界的な原油価格の高止まりに通貨下落が相乗効果となって輸入インフレをもたらし、16年ぶりの高インフレに苦しんでいる。

図 13 海外労働者送金の推移(前年比)

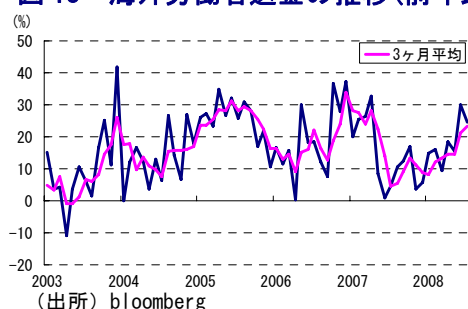


図 14 為替相場の推移



以上